

乳腺の腫瘍

担当診療科：内分泌・乳腺外科

代表的な対象疾患：乳がん

◇2020年の診療実績（2020年1月1日～12月31日）

疾患名	新規患者数
原発性乳がん	203

◇専門医、認定医、認定看護師等

日本乳癌学会 乳腺専門医 5名（うち指導医2名）

◇臨床試験の実施状況（試験数）（2021年9月1日現在）

進行中 15件

申請中 3件

◇当院における診療の注目ポイント

1. 手術

当院では形成外科の協力の下で同時（一次）乳房再建手術を行っています。

一次再建では手術回数・費用を軽減することがメリットです。

また、乳房の再建法は大きく分けて自家組織による再建と組織拡張器を用いた人工乳房による再建がありますがいずれの手術も可能です。

2. 遺伝性乳癌

ある米国女優が予防的両側乳房切除をしたことで有名になった、遺伝性乳癌に対して積極的に取り組んでいます。BRCAという遺伝子に変化がある方は高率に乳癌になる体質であるため、通常の健診ではなく専門的な検査が必要です。まだ乳がんにかかっていない乳房に対する予防的乳房切除を行っています。さらにこの手術を婦人科の予防的卵管卵巣切除と同時に行うことも可能になっています。また乳癌再発治療中の方には遺伝性乳癌で適応になる新しいお薬があり、ご家族と共に遺伝子の検査を行うか考えるお手伝いをしています。

3. がん免疫治療

再発してしまった乳がんのなかには、免疫治療が有効なタイプがあります。当院では免疫治療が可能かどうかを調べる遺伝子検査や免疫染色を行い、適合する方には免疫治療を受けていただくことができます。

4. 妊孕性温存

がんに対する薬物治療の進歩により、以前は治療が困難とされていたがんでも克服できる患者様が増えています。一方で、治療によって、妊娠に必要な臓器に負担がかかり、将来に妊娠する力（妊孕力）が低くなってしまっているとされています。

近年、抗がん剤や放射線を用いる治療の前に、卵子や精子、卵巣組織を凍結保存し、がんの治療が終わった後に妊娠出来る可能性を残す治療（妊孕性温存療法）が確立されてきました。当院では産婦人科との協力の下、妊孕性温存治療に取り組んでいます。

関連診療科ホームページ <https://www.kpumbreast.com/>